

火災危険性を有するおそれのある物質に関する調査検討会（平成 27 年度第 1 回）  
議事要旨

1 開催日時

平成 27 年 5 月 25 日（月）14 時 00 分から 16 時 00 分まで

2 開催場所

中央合同庁舎 7 号館（金融庁）9 階共用会議室（904）

3 出席者

（1）委員（敬省略、順不同）

田村 昌三（座長）、朝倉 浩一、新井 充、岩田 雄策、芝田 育也  
鶴田 俊、三宅 敦巳、八木 伊知郎

（2）オブザーバー

平地 康一、藤沢 久

（3）事務局

白石 暢彦、鳥枝 浩彰、清水 崇一、神山 雄太

4 配布資料

（資料 I - 1）「火災危険性を有するおそれのある物質等に関する調査検討報告書  
（平成 26 年度）の概要」

（資料 I - 2）「火災危険性を有するおそれのある物質」の調査方法（案）

（資料 I - 3）「消防活動阻害物質」の調査方法（案）

（資料 I - 4）今後の検討会スケジュール（案）

（資料 I - 5 ①）マグネシウム火災に係る対応（案）

（資料 I - 5 ②）金属火災において水消火を行うことの危険性に関する実大実験（案）

（資料 I - 5 ③）マグネシウム安全対策マニュアル（案）

（資料 I - 5 ④）今後の検討会スケジュール（金属火災対応）（案）

〔参考資料 I - 1〕火災危険性を有するおそれのある物質等に関する調査検討報告書  
（平成 26 年度）

〔参考資料 I - 2〕消防法令抜粋（消防法上の危険物の定義、試験方法など）

〔参考資料 I - 3〕 一般化学物質の製造・輸入数量（平成 25 年度実績）について

〔参考資料 I - 4〕 消防法令抜粋（消防活動阻害物質関係）

〔参考資料 I - 5〕 委員等名簿

〔参考資料 I - 6〕 開催要綱

〔参考資料 I - 7〕 平成 26 年度第 3 回検討会議事要旨（案）

〔付属資料 I - 1〕 マグネシウム合金の白色残渣物定性分析結果

## 5 委員等照会

参考資料 I - 5 をもとに参加者の紹介をした。

## 6 座長選出

開催要綱（参考資料 I - 6）に基づく委員の互選により、田村委員が座長に選出された。座長より座長代理として、鶴田委員が指名された。

## 7 議事内容

(1) 「平成 26 年度第 3 回検討会議事要旨（案）」について

○事務局より参考資料 I - 7 をもとに説明を行いた承された。

(2) 「火災危険性を有するおそれのある物質等に関する調査検討報告書（平成 26 年度）の概要」について

○事務局より資料 I - 1 をもとに説明を行った。

(3) 「火災危険性を有するおそれのある物質」の調査方法（案）について

○事務局より資料 I - 2 をもとに説明を行った。

【委員】新規の物質について特定されているか。

【事務局】輸出・輸入協会と協議し、調査を進めていく予定である。

【オブザーバー】化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律により、届出された物質の内、年間輸入量が 100 t 以上の物質については経済産業省のホームページ内で公表している。

(4) 「消防活動阻害物質」の調査方法（案）について

○事務局より資料 I - 3 をもとに説明を行った。

【委員】厚生労働省での「毒物及び劇物指定令」の一部改正はいつ頃になるか。

【オブザーバー】まだ決定していないが、例年通りの予定で進んでいる。（補足：「毒物及び劇物指定令」の改正は平成 27 年 6 月 19 日(金)に公布された。）

(5) 今後の検討会スケジュール（案）について

○事務局より資料 I-4 をもとに説明を行った。委員から特段の意見はなかった。

(6) その他（マグネシウム火災に係る対応（案）等について）

○事務局より資料 I-5 ①、I-5 ②、I-5 ③及び I-5 ④をもとに説明を行った。

【委員】資料 I-5 ③「マグネシウム等の安全対策マニュアル（案）」で「4 初期消火のポイント」の（3）に ABC 粉末消火器と記載があるが、消火に適しているのか。

【事務局】マグネシウム火災の消火に適していないこと及び周囲の初期消火に使用することを想定して記載したものであることから、「ABC 粉末消火器」を削除する。

【委員】マグネシウムと ABC 粉末消火器の反応性について知っておく必要があると考える。また、「ABC 粉末消火器がマグネシウム火災に適さないこと」及び「マグネシウムと混触禁止物質について」の記載をお願いしたい。

【事務局】承知した。

【委員】今年度の実験は、マグネシウム及びマグネシウム合金に限っているが、今後の展望は考えているのか。

【事務局】マグネシウムの危険性を判断した上で、必要ならばその他の金属についても検討していく予定である。

【委員】量的尺度での検証が行える実験方法を検討し、その他の尺度が変動しない様な実験計画が必要である。

【事務局】昨年度の実験では、微量での実験であったため、量的尺度での検討が行えなかった。そのため本年度は、300 cm<sup>3</sup>、600 cm<sup>3</sup>、900 cm<sup>3</sup>及び 10L での実験を計画している。

【座長】意見を参考に今後進めて頂きたい。

(7) その他

【座長】第 2 回検討会の開催日については、8 月 17 日（月）10 時から開催予定とする。

以上